

## 座標のない男

座標のない男

Robert

Oliver

Emma

Harley-Davidson Canada の職員

大西

オキ

カヨ

イズミ

ハラダ

男子高校生 1

男子高校生 2

音楽小ホールのスタッフ

カリフォルニアにある小さな公園

バスケットをして遊ぶRobertと Oliver

シュートするOliver

ボールを見守るふたり

ボールはすんでのところでリングに当たって跳ね、ふたりは落ちたボールを拾おうと駆け出す

ボールを取り合ってはしゃぐ Oliver と Robert

Oliver がボールを取り、それを奪おうとするRobert

Robert 「 Come oooooon! 」

Oliver 「 Ah… I'm boiling, Robert. 」

Robert 「 Yup, it's too hot today. You want to come over and watch NBA games? 」

Oliver 「 Sure. 」

公園を去るふたり

Robert が Oliver の持つボールを取ろうとする

Oliver 「 Stop it! 」

それをかわす Oliver

Robert の家に着いたふたり

リビングでくつろぐ母親 (Emma) を呼ぶ Robert

Robert 「 Mam!! 」

Emma 「 Robert? You're home early! 」

Robert 「 Yup, I'm with Oliver. 」

Emma 「 Who? 」 Robert 「 Oliver!! 」

玄関に迎え出る Emma

Emma 「 Hi, Oliver. How are you? 」

Oliver 「 Hello, Emma. Fine. 」

Emma 「 Come in. I'll have some tea and cookies. 」

Oliver 「 Thanks. 」

Robert 「 Oliver! 」

リビングのソファにもたれかかり、タブレットPCで試合の動画を探すふたり

Emmaは家の中を行ったり来たりして忙しそうに家事をする

Robert 「 Washington vs New England… , Tennessee vs Green Bay… , hey, Chicago vs Baltimore is available soon. 」

Oliver 「 Okay, cool. 」

Robert 「 … Oh what's this? 」

Oliver 「 Hum? 」

タブレットを覗くふたり

そこにはHarley-Davidson Canada の職員と、全体が赤く錆びついて損傷が激しいハーレー・ダビッドソンのオートバイ、ナイトトレインが映っている

Oliver 「 What the fuck? It's completely red with rust! 」

Oliver 「 Hey, we won't watch the game? 」

Robert 「 After this. 」

職員は大きな身振り手振りとは豊かな表情でインタビューに答えている  
その様子を一心に見るふたり

Oliver 「 So what's happened on the bike? 」

Robert 「 You didn't hear his interview? This Harley-Davidson drifted across the Pacific Ocean from Mi... Mi-ya-gi. 」

Oliver 「 Where? 」

Robert 「 Japan. ... near Fukushima. 」

Oliver 「 Where is Fukushima?? 」

Robert 「 ... Japan!! 」

しゃべり続ける職員

座標のない男がナイトトレインの横をゆっくりと通り過ぎる

Robert 「 Don't you know Great East Japan Earthquake? 」

Oliver 「 Ah... 」

Robert 「 Tohoku earthquake, 3.11, Nuclear Accident. 」

Oliver & Robert 「……………」

Oiver 「 We're gonna watch the basketball game? 」

Robert 「 Yeah, now. 」

Oliver 「 Great. 」

NBAの試合を見るふたり

いわき芸術文化会館アリオスの、音楽小ホール連絡通路にて

大西、自動ドアから出てきてスロープの手すりにもたれかかり、タバコを吸い始める

オキ、カヨ、イズミがその後を追うようにして現れ、大西を囲むようにスロープに集まる

ぼそぼそと文末に向かってセリフが聞き取れなくなる大西とは対象的に、オキ、キヨ、イズミはおしゃべりが好きで、相手が話し終えるのを待てない性分なのか、人の言葉尻に時おりセリフをかぶせながら（＝スラッシュ部分）、めいめい好き勝手にしゃべる

カヨ「え、のんちゃんどうしたの、あれ、ていうか、もともと出るはずだった子は」

大西「あー、なんか、別のライブとかぶったらしくて、あとなんか自分でやれっていうことになっちゃって」

オキ「だから大西くんが行って弾いたの」

カヨ「カーッコイイよねえ」

オキ「どこのコンサート？ 会場？」

カヨ「UMEバンド」／イズミ「クローバー・テーブル」

オキ「クローバー・テー…」／カヨ「なんか林城（りんじょう）にあるんだわ、なんかレストランみたいな」

オキ「小名浜？」

カヨ「林城、小名浜の」

イズミ「そうそう」／オキ「ふーん」

カヨ「開成病院の近く？」

大西「あ、そっすね」

オキ「ほーん」

大西「住宅展示場のちょうど裏ぐらいに」

オキ「ほおーん」／カヨ「んん」／イズミ「うん」

大西「すーごいわかりにくい」／イズミ「あの名前見たときさ、大西圭佑って、あれ…」／カヨ「そそそそあたしもそれ思っ」／イズミ「いやこの人、この人こんな名前だったかなって」／カヨ「おんちゃん！？ って、なんか、あはは写真でっかくしてみたりして、でもこれ、違うよねって、ほほ」

オキ「……あ、別な人の写真で」

カヨ「そうそうそうそう、人数数えたりなんかして、あれ、五人だよな？ って」

オキ、大笑い

オキ「ライブ写真とかじゃなくてね」

カヨ「そうそう」／イズミ「ポスター」／カヨ「告知みたいなやつね」

大西、タバコを消す

イズミ、手に持っているペットボトル飲料を飲む

カヨ「え、なにそれ」

イズミ「桃の」／カヨ「TEA？ あ、天然水なんだ」

ハラダ、歩いてくる

オキ、ハラダに気づいてタバコを消し

カヨ「へえ、透明なんだあ」

オキ「どうもこんばんは！」

ハラダ「どうもー」

オキ「あ！ こないだどうもすみませんどうありがとうございました」／ハラダ「いやいやいや」

カヨ、イズミ、オキを見る

オキ、カヨたちに向かって

オキ「こないだの、あれで、飲み物ちょうだいして」／カヨ「あーあれ！ どうもすみません、ごちそうさまでしたー」／オキ「ほんとありがたい」／ハラダ「いえいえこちらこそ貴重なお時間いただいてすみませんでした」／カヨ「貴重なんてそんなだはは」／オキ「ごちそうさまでした、どうも」／ハラダ「いーえー、とんでもない」

以降、オキとハラダ、大西とカヨとイズミの会話が同時発生する

オキ「あと一ヶ月切りましたね」

ハラダ「ね！ あっという間ですんで！」

オキ「うちはもう試験休みで、うちで勉強してんだかしてないんだか、わからないけどもずっと」

ハラダ「あらそうですか」

オキ「うん、土、日、月、火、水と、五日間」

ハラダ「私んところは先週だったんですけど」／オキ「うん」

ハラダ「なんか先週と今週が、試験多いらしくて」

オキ「いやあ、ほんと、やってるんだかどうなんだかって」／ハラダ「おほほほほ」

オキ「なんとか、間に合ってくれば」

ハラダ「ねえまあでもとにかく」

オキ「ええ、親同士、乗り切りましょう」

ハラダ「よろしくお願いします、ふふ」

オキ「じゃ、どうも、お呼び止めしました」

ハラダ「いえいえ、どうも」

カヨ「何人くらい入るの、二十人とか？」

大西「いや、三十くらいっすね」

カヨ「あそうなんだ、ごはん的には」

大西「ああ」

カヨ「おいしいの」

大西「なんかピラフとかおにぎりにしてくれて、ぱっと食える感じで」

カヨ「へーえ」

イズミ「中きれいなだね」

カヨ「あ、そーなんだ、新しいんだ」

大西「まあ」

カヨ「私すっげ近くに住んでんのにわかってねんだけどさふふ」

イズミ「おんちゃんもさあ、ああゆとこいっぱい顔出せばいいと思うよ」

カヨ「疲れっしょそれはそれで」／イズミ「だってさ、色んなとこ出て顔繋げばさ」／カヨ「もう繋がってるでしょ大西くんは！ 広いよお！」

イズミ「でもけっこうジャンルが違うじゃないビッグバンドなんかの」

大西「…まあ、今回のことでだいぶ目をつけられてはいる感じで」／カヨ「だよねえーだはは」

／大西「何かと呼ばれるんで」

オキ、戻ってきて

オキ「だって大西くん何でもイケるんだもん！」／カヨ「そうなんよ、何でもだよ」

オキ「ジャズドラムだって叩けてしかもやたらと得意っていう」／カヨ「できないことないんだもん」オキ／「たぶん吹奏楽もイケるよ、スネアとかティンパニとかやってる人はふつうにイケちゃう」／カヨ「だってベースもギターも全部できんだもん、ピアノもイケちゃうしさ」／大西「あんな丁寧な叩き方できないっすよ」／オキ「いや！」／カヨ「サククスもできるしさ」／大西「荒らしに行くのならいいけど」／オキ「いやいやイケると思います！」

カヨ「オキさんはどうなの、順調なの」

大西、タバコが無くなって手持ち無沙汰

イズミがタバコを一本くれる

座標のない男が現れ、喫煙者ふたりの近くでタバコを吸い始める

大西「あ、ありがとうございます」

オキ「俺ねえ、もおう、どうやってこしらえようかつつってほんと、毎日さ譜面見て、あー」

カヨ「大丈夫それ」

オキ「いや正念場、でもねこれが、楽しいの！」／カヨ「あそう」／オキ「弾いてるだけですが  
ごい楽しいのははははは」／カヨ「だけどよく体力保つよね」

オキ「いやへろへろ、体力的にはへろへろだけど、音楽やっぱり楽しいから…」／カヨ「でも  
一時より痩せましたよね」

オキ「あ、もう、それは歳のせい」

カヨ「そなの？」／オキ「加齢による…、くくく」／カヨ「加齢で痩せんだ」

オキ「加齢による肉の集中」／イズミ・大西「くっくっくく」／カヨ「どうすんのそれ」

オキ「あのねだんだん真ん中に集まってくっから」

カヨ、スタッフに気づく

スタッフが自動ドア越しに手招きしている

カヨ「はい？ はい、はい、はい」

カヨ、自動ドアの中へ

オキ「じゃあそろそろ…」

オキもそれを追う

大西、イズミ、黙ってタバコを吸う

さっきまでの賑やかな雰囲気とは打って変わり、静かにタバコの煙を吐くふたり

男子高校生二人がメインホールの自動ドアから出てくる

ひとはニンテンドー3DSをプレイしながら歩き、ひとはそれを覗き込んだり数歩先に行っ  
たりする

イズミ「じゃあ、先に…」

大西「あ、はい」



イズミ、建物の中へ  
しばらくして大西も中へ

男子高校生2が立ち去ろうとする  
男子高校生1、大西のいた場所にジッポを見つける

男子高校生1、ジッポで遊ぶ

スタッフが足早に出てくる  
男子高校生1、驚いてジッポを植え込みに放る  
それを見ている座標のない男

男子高校生2が男子高校生1を呼びに戻ってくる  
男子高校生1、男子高校生2とともに立ち去る

座標のない男、しばらくタバコを吸い続ける

大西が戻ってきてジッポが無いかと探す

ジッポは出てこず、建物に戻る大西

座標のない男、タバコを吸い続けている

Robertの家のリビング

お互いに寄りかかり合って妙な姿勢になり試合を見ているOliver とRobert

Oliver 「 I'm leaving now. 」

Robert 「 Okay. 」

Oliver 「 Bye. 」

Robert 「 Bye, see you soon. 」

Emma 「 Are you leaving so soon? Take care. 」

Oliver 「 Bye. 」

Emma 「 Good-bye. 」

帰り道、シュートのフォームで軽くボールを投げては拾い、投げては拾いを繰り返すOliver  
ボールが思いの外、遠くまで転がって見失う

座標のない男がいる

Oliver 「 Did you see my ball? 」

座標のない男、微笑みながら立っている

Oliver 「 Don't you hear me? 」

座標のない男 「君のボールはここにはないよ」

Oliver 「 I know you! I watched you a while ago, ... with the motorcycle on the video. 」

座標のない男 「そう、君はあのツナミバイクのニュースを見たんだね」

Oliver 「 You work in Harley-Davidson? 」

座標のない男 「いいや、僕はハーレー・ダビッドソン・カナダ社の職員じゃないよ。ただ僕は  
いつでもどこにでもいることができるから、ニュースにも映り込んだんだ」

Oliver 「 Wow... That's cool. 」

Oliver 「 You meant you're seriously drunk? 」

座標のない男 「しらふだよ、葉っぱもやってないね、まっさらだ」

Oliver 「 So... are you an angel or some? 」

座標のない男「かわいいことを言うね、じゃあそういうことにしよう」

座標のない男「残念ながら君はもう君のボールには会えない、今の君には知るべくもない理屈が働いて、ボールは君から離れてしまったから。でもこの世界は信じられないほど多くの事柄がこんがらがってできている。いずれはその理屈の一端を、知ることがあるかもしれないよ。その理屈はびっくりするようなものではないかもしれない、なんだこんなことだったのかとがっかりするかもしれない。しかし少なくとも、今の君はまるでその理屈に触れられない。それでも君が健やかに育つよう、祈るよ」

Oliver 「 I got it. 」

座標のない男「良い子だ。じゃあね」

Oliver 「 … Good-bye. 」

いわきの音楽小ホールの練習室

ジャズドラムを叩いている大西

オキ、カヨ、イズミがそれを楽しそうに見ている

バスケットのシュートのフォームをつくり、何度かじっくりとシュートを繰り返すOliver

Robert がやってくる

Robert 「 Why are you playing air-basketball ?? 」

Oliver 「 Cuz my ball has gone. 」

Robert 「 How about 7days-to-die ?? 」

Oliver 頷いて Robert の横に座る

PS4 でゾンビゲームを始めるふたり

座標のない男、ゆっくりと歩き出す

人々の間を、愛おしそうに微笑みながら通り抜けてゆく

ジャズドラムをひとつお叩き終える大西、大げさにタオルで汗を拭う  
オキ、カヨ、イズミは拍手をしたり「ヒュ〜ウ!」「かーっこいいー」などと賑やかに褒めそや  
す

Oliver とRobert は意味のない言葉を叫びながら、襲ってくるゾンビたちから必死に逃げてい  
る